

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200128		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家佐太中町 (ユニット1)		
所在地	大阪府 守口市 佐太中町 7丁目 10-20		
自己評価作成日	平成29年6月27日	評価結果市町村受理日	平成29年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JirvosyoCd=2793200128-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年8月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活リハビリを中心に生活して頂いています。調理においては出来る方はフライパンを使用し炒め物などをされたり包丁で調理もスタッフと行っています。立位困難な方はテーブルにて盛り付け等を行って頂いています。 清掃も1日3回、スタッフと行って頂いています。園芸療法も用いて畑の開墾も行い、苗植えから毎日の水やり、収穫し調理に使う日もあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、人との輪やコミュニケーションを大切にすることなどを理念に掲げ、職員間や利用者、家族等とのコミュニケーションを大切に、利用者の思いに寄り添い支援を行っています。利用者のできることを日々発揮できるよう、食事作りや1日3回の掃除、洗濯物を干したり畳んだりすることで役割を感じたり生活リハビリとなるよう支援し、心身の機能維持に繋がるよう取り組んでいます。また医療との連携が良く、協力医の往診には看護師や薬剤師も一緒に来訪し情報を共有し、24時間連絡可能で体調の変化があった際には随時往診があったり看護師が来訪し状況を医師に伝え対応してもらうこともあります。更に看取り支援の経験があり、家族や医師と連絡を取りながら、食事の工夫や本人の希望を大切にしたい関わりを心がけ、職員は連携良く支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は相談室に掲示し周知しています。	職員間で意見を出し合い作成した事業所独自の理念は、具体的な行動内容と行動指針と共に相談室に掲示し意識できるように取り組んでいます。日々職員間や利用者、家族等とのコミュニケーションを大切にし、挨拶や接遇に配慮しながら支援を行い、毎月行う会議の中で実践できているか話し合う機会を持っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し夏、秋祭り、初詣に参加や神社清掃に御利用者様と参加しています。	自治会に加入し、神社の清掃や公民館で行われる行事、地域の祭り等にも参加し利用者は交流しています。散歩や事業所前の掃除など外に出た際に地域の方と挨拶を交わし、地域の薬局や店舗の利用を心がけ、地域との良好な関係が深まるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物も含め外出する事により認知症に対する理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各方面の関係者から頂いた意見はスタッフ間で話し合い実践しています。	運営推進会議は昨年度1回と今年度1回開催しており、家族や地域包括支援センター職員、婦人団体協議会会長等の参加を得ています。事業所の活動や行事の実施状況、利用者の様子を伝え、意見交換を行っています。今後定期的な開催を予定しています。	年に6回の開催が望まれますので、定期的な開催が実現できることを期待します。また出席できない家族にも内容を伝えられてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問などがあれば保険者のくすのき連合や市役所高齢介護課へ相談しています。	手続き等で市役所に行く際には利用者も一緒に出向き事業所の状況を伝えたり指導を受けることもあります。市のグループホーム連絡会は市役所で行い市職員から防災についての話があるなど、協力関係が築けるよう取り組んでいます。実践者研修などの研修案内があれば、必要に応じて受講しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年本社研修項目で行われており受講しスタッフへは伝達研修をしています。	少なくとも年に1回は虐待や身体拘束についての研修を行い、全職員に周知しています。玄関やフロアの入り口は家族にも了解を得たうえでカギをかけていますが、日常的に外に出る機会を作り、希望があった時に一緒に出掛けることもあります。利用者の行動を止めるような対応があった時には、都度注意したり研修を行っています。	

グループホーム たのしい家佐太中町（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年本社研修項目で行われており受講しスタッフへは伝達研修をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、成年後見人制度が詳しく分かる外部研修を探し全スタッフへ周知し参加を促していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は急がず、ゆっくりと説明し所要所で御家族様に確認し後日、質問や疑問ができればいつでも連絡や説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しご来宅時、いつでも意見を頂戴できるようにしています。	面会時や電話の際に利用者の様子を伝えコミュニケーションを図ったり、法人による年に一度のアンケートで家族から意見や要望を聞いています。家族から挨拶などの接遇についての意見をもらい、毎月会議で接遇面の注意や話し合いを行い改善に繋げるなど、得られた意見をサービスに活かしています。今後便りなどを発行し、より利用者の事を伝え意見を出しやすくしたいと考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設会議で意見を聞いています。	申し送り時や日常的に職員は備品購入やケアについて意見を出し合っています。毎月の会議では事故報告やヒヤリハット事例についての対策を再検討したり、業務改善等の意見が出されています。管理者の交代があり間もないため、徐々に個人面談を行い始めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社による年1回の従業員満足調査やキャリア段位制度により次の目標を明確にし具現化しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制、人員体制によるが今後は研修参加に努めたいです。		

グループホーム たのしい家佐太中町（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2ヶ月に1度の、同市内グループホーム管理者会議に参加しています。スタッフは同社内の施設交流を行っています。今後は他社事業所との交流もしていきたいです。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の希望や不安などを傾聴し安心して生活できる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に安心して頂ける様にご利用者様の日常生活を詳しく伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や入居後のアセスメントにおいて御本人様とその御家族様にとってどのようなサービスが必要か見極め実践しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、洗濯、掃除の生活リハビリを中心に何が出来るかを把握しスタッフと共にする事により暮らしを共にしています。また、今年より畑と一緒に耕し園芸療法も取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会の機会を増やし御本人様と家族様の関係が疎遠にならない様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や親戚関係方など御家族様以外でも積極的に面会に来て頂ける様に努めています。	友人等の面会があった際には居室に案内し椅子の準備やお茶を出しゆっくり過ごしてもらえるように配慮しています。家族と墓参り等に出かける際には準備等の支援を行っています。近隣から入居した方も多く、買い物先や近隣の神社などは馴染みの場所であり散歩等に出かけています。	

グループホーム たのしい家佐太中町（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、朝夕の挨拶も活発で違うフロアのご利用者様とも顔見知りになっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去以外の契約終了がありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人、1人の希望や意向を常に把握しケアプランに反映しています。	入居時に利用者や家族から生活歴や好み、希望等を聞き、以前利用していた事業所や病院等からの情報を得て思いや意向の把握に繋げています。入居後は日々の関わりやコミュニケーションの中から思いを汲み取り記録に残し、会議やカンファレンスで本人本位に話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者様との会話の中からやサービス経過表を作成し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調や、個々の力の把握に努め新しく発見した事があれば申し送りや連絡帳を利用しスタッフ間でしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題に向けての情報は、毎月の会議時にケアプランの確認をしています。	利用者や家族の思い、アセスメントを行い、サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。3か月毎に再アセスメントや評価、サービス担当者会議を行い、変化がなければ6か月毎に見直しています。計画の見直し前には家族に意向を確認し、訪問看護師や往診医からも情報をもらい計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア記録に記載し申し送り等で情報の共有を図り意見交換しています。		

グループホーム たのしい家佐太中町（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様の不安等があれば買い物に行くなどしています。また、以前の様に京都観光に行く機会を再開したいです。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	薬局やスーパー、郵便局等行く機会を今後は今よりも増やしていきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、第1・3火曜日に訪問ドクターにより支援しています。	入居時に以前からのかかりつけ医の継続も可能であることを説明していますが、現在は全員が協力医の月に2回の往診を受け、毎回往診結果を主治医が家族に送付し伝えています。24時間連絡可能で随時往診があったり看護師が来訪し状況を医師に伝え対応してもらうこともあります。専門医への受診は家族の付き添いを基本とし協力医の紹介状を持参してもらっており、家族の対応ができない時には職員が支援しています。また週に1回訪問看護や訪問歯科による口腔ケアを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に訪問看護師により支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、管理者だけでなくスタッフもお見舞いに行き病院関係者と関係づくりを密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約では御家族様にホームの方針として看取り介護を行っている事を説明しています。	入居時に重度化や看取り支援についての指針を説明し、重度化した場合に医師の判断のもと家族に状況を説明し、職員と三者で話し合いを重ね方針を共有し支援しています。看取り支援の経験があり家族や医師と連絡を取りながら、食事の工夫や本人の希望を大切に職員は連携良く支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後、定期的に訓練を行い実践力を全スタッフが身につくようにしていきます。		

グループホーム たのしい家佐太中町（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今後、定期的に訓練を行い実践力を全スタッフが身につくようにしていきます。	年に2回行う消防訓練の内1回は消防署の立ち会いの下実施し、通報や初期消火、利用者と一緒に避難誘導を行っています。独自の訓練では消火器や火災報知機の確認等を行っており、水や缶詰めなどの食料の備蓄をしています。訓練の実施に当たっては地域の方に声をかけていますが、参加は見られていません。	職員の少なくなる夜間を想定した訓練の実施を期待します。また地域の方の参加に向け働きかけや開催日時などを工夫されてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今後は身体拘束、虐待の勉強会を増やし密に取り組んでいきたいです。	人との輪やコミュニケーションを大切にすることを理念にも掲げ、接遇マナーについての研修の実施や毎月行う会議で振り返りを行い、利用者を尊重した対応に努めています。強い口調にならないよう心がけ、排泄や入浴はできる限り同性介助で行うなど、プライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを密にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の好きなレクリエーションを考えたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アクセサリーを好まれる方はアクセサリーをつけて頂いたり日々の洋服を選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方の残存能力に合わせて、調理や盛り付け、下ごしらえ、洗い物をスタッフと行っています。	食材提携会社からメニューと食材が届き、利用者と一緒に食事を作り、台所に立つ方や食卓で座って食材を切ったり、調理、盛り付けなどのできる事に携わってもらっています。職員も利用者と同じ食卓に着き、同じものを一緒に食べ、介助したり会話をしながら和やかな食事の時間となっています。季節ごとの行事食や畑で育てた野菜を使用したり、おはぎなどのおやつ作りを楽しみ、時には回転寿司等へ外食に出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提携会社からの管理栄養士のメニューに基づき摂取して頂いています。また水分量の少ない方には声掛けし補水して頂くようにしています。		

グループホーム たのしい家佐太中町（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、御利用者様全員の口腔ケアを行いスタッフが付添い仕上げを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御利用者様のサインや行動を把握しトイレ誘導を行っています。	排泄チェック表からパターンを把握し、仕草も観ながら個々の利用者のタイミングでトイレに行けるように支援しています。重度になっても本人の意向を尊重しながら介助者を増やしてできる限りトイレに座れるよう支援しています。会議や日々職員間で意見を出し合い、個々に会った排泄用品や支援の方法を検討し自立に向けて取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関と連携し指示の基、下剤コントロールや補水強化に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、タイミングが合えば昨日入られても当日も入浴して頂いています。	一日に5人程を目処に入浴の支援をしており、主に午後に入ってもらっています。希望や状況によっては午前中から入浴し、湯は毎回入れ替え、入浴剤や菖蒲湯などの季節湯も取り入れながら入浴を楽しめるよう支援しています。シャンプーやリンスなどは好みの物を持ってきている方もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に御利用者様が好まれる絵や写真、花、仏壇などを配置し寝具の清潔保持も努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関と連携し往診日には薬剤師も来られ直接確認しています。また薬剤変更時には直接医師より注意点の指示も頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを中心に炊事、洗濯、掃除をスタッフと行い畑を活用し水やりや収穫をし園芸療法にも取り組んでいます。		

グループホーム たのしい家佐太中町（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフ同行で散歩や買い物にも行っています。以前の様に年1回になるが数名の御利用者様と京都観光の企画も再開させたいです。	気候や天気に応じて散歩に出かけたり、役所の手続きや買い物など職員が出かける際には利用者も一緒に行く等、日常的に外出の機会を作っています。屋上にテーブルや椅子を出して外で食事をしたり、庭に出て野菜や花の水やりをする際に外気に触れています。夏祭りなどの地域の行事に行ったり、花見は家族を誘って企画しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者様の所持金は事務所金庫で保管していますが御利用者様の嗜好品購入時はレジで御本人様にお金を渡して頂き、おつりも貰えるように声掛けしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様の許可もあり携帯電話をお持ちの御利用者様もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体(特にフローア、トイレ、玄関)は1日3回掃除するなど清潔を心掛けています。また両フロア一共、常に花があり季節感を感じて頂いています。	共有空間にはヒマワリなどの壁絵や生花を飾ったり観葉植物を置き、庭や中庭で様々な野菜を育て、季節を感じられるようにしています。利用者同士の関係性を見て席やテーブルの配置を考えたり、ソファを置き穏やかに過ごせるよう配慮しています。空気清浄機や加湿器を設置し1日3回以上掃除を行い清潔保持に努め、温湿度管理にも注意を払い居心地の良い空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローア各自席で雑談されたり、ソファで一緒に座られたりと自由にして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者様が自宅で使われていたタンスや引き出し、仏壇、ぬいぐるみ、花、写真などお好きな物を置いて頂いています。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうように伝え、タンスや椅子、テレビなど持参したものを家族が配置し、入居後は利用者にとって安全や暮らしやすさを考慮して配置替えをすることもあります。大切にしている仏壇を置いたり家族の写真や塗り絵などの作品を飾り、その人らしい居室作りを支援しています。希望があればベッドではなく布団を敷いて休むことも可能です。毎日掃除を行い快適に過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを中心に炊事、洗濯、掃除をスタッフと行い、各居室には御本人様と分かる様に名前を表示しています。		